

12 健康状態、家計、生活満足度の主観的評価

12-1 健康状態の評価

1) この1週間の心身の健康状態

うつ病の診断尺度である CESD 尺度を利用して、この1週間の心身の健康状態についてたずねた。ただし、ここでの目的はうつ病の診断ではなく、あくまで抑うつ傾向を通じて心身の健康状態の良し悪しをみることにある。尺度化にあたっては、「まったくなかった」に0点、「週に1～2日」を1点、「週に3～4日」を2点、「ほとんど毎日」を3点とした。得点の高いほど、頻繁に各項目に該当する心身状態を経験していることになる。

表12-1に、この尺度を構成する12項目それぞれの男女別の平均点を示した。全体で見ると、「(サ) 毎日が楽しい」が1.3810で最も高い数値を示している。これはポジティブ感情を測るもので、この項目だけ他とはやや異質である。ネガティブな感情を測る項目で見ると、「(ウ) 憂うつ」(0.6255)、「(ア) わずらわしい」(0.6146)、「(カ) 面倒」(0.5977)、「(エ) 集中できなかった」(0.5829)などが比較的高い数値となっている。性別で見ると、「(カ) 面倒」、「(ア) わずらわしい」、「(ケ) 眠れなかった」、「(ウ) 憂うつ」、「(シ) 悲しいと感じた」をはじめとして、多くの項目で女性のほうが頻繁にネガティブな感情を経験している結果がわかる。

表12-1 この1週間の心身状態の評価(男女別)

	全数	男性	女性	平均の差の検定
(ア) わずらわしいと感じた (N=6243)	0.6146	0.5175	0.7010	***
(イ) 励ましてもらっても気分が晴れない (N=6215)	0.3517	0.3149	0.3845	***
(ウ) 憂うつだと感じた (N=6235)	0.6255	0.5767	0.6687	***
(エ) 物事に集中できなかった (N=6545)	0.5829	0.5494	0.6125	***
(オ) 食欲が落ちた (N=6257)	0.2773	0.2626	0.2904	
(カ) 何をするのも面倒と感じた (N=6247)	0.5977	0.4944	0.6894	***
(キ) 何か恐ろしい気持ちがあった (N=6226)	0.1760	0.1579	0.1922	**
(ク) なかなか眠れなかった (N=6253)	0.4587	0.3988	0.5118	***
(ケ) 口数が少なくなった (N=6246)	0.3157	0.3198	0.3121	
(コ) 寂しいと感じた (N=6239)	0.2364	0.2457	0.2281	
(サ) 「毎日が楽しい」と感じた (N=6215)	1.3810	1.3336	1.4233	***
(シ) 悲しいと感じた (N=6241)	0.3863	0.3304	0.4361	***

(*** p<.001, ** p<.01, * p<.05)

次に、「毎日が楽しい」をのぞく11項目を足し合わせて、0点から33点までの範囲をとる加算尺度を作成した(尺度の信頼性を示す α 係数は0.8824で、十分信頼できる尺度となっている)。得点の高いほど心身の健康状態が良くないことを示すと考えてよいだろう。図12-1は、このCESD尺度の性・年齢別の平均点を示したものである。ここでの分析では、コーホートよりも年齢(調査時年齢)別に考えたほうが妥当であろう。男性では、「63-67

歳」(3.2915)で最も得点が低いが、その後上昇して、「73歳以上」(4.5652)で最も高くなっている。女性では、「38-42歳」(5.6467)で最も得点が高く、その後高齢になるほど得点が低くなって「58-62歳」(4.1755)で最低となるが、その後また若干上昇している。男女で比較すると、「73歳以上」を除いて、女性のほうが高い得点となっており、特に20、30、40歳代の比較的若い年齢層と、「63-67歳」の向老期で、その差が大きい。

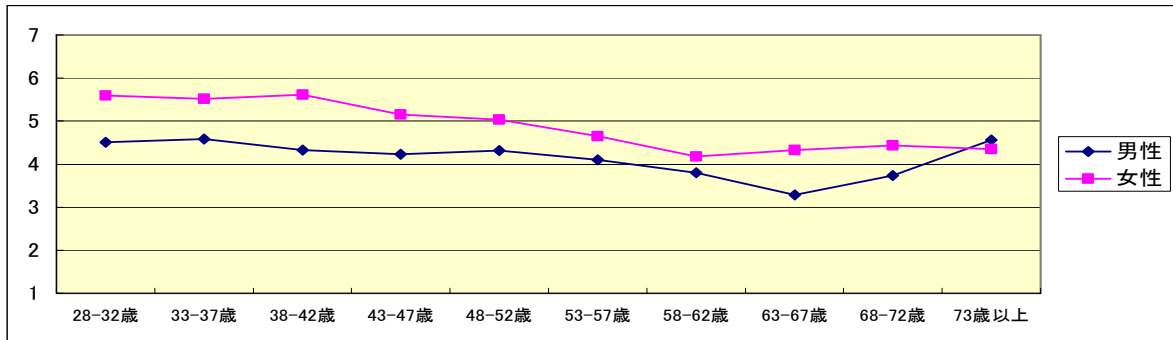


図12-1 CESD尺度得点(男女・年齢別)

2) ここ1年間の健康状態の評価

「あなたのここ1年間の健康状態は、おおむね、いかがでしたか」という問いかけ文のもと、「たいへん良好」「まあ良好」「どちらともいえない」「やや悪い」「たいへん悪い」の5段階評価でたずねた。その結果を男女別のクロス表に示したのが、表12-2である。合計でみると「たいへん良好」9.6%、「まあ良好」54.7%で、6割以上が良好と回答している。X²検定では5%水準の有意差があり、男性で「たいへん良好」がやや多く、女性に「やや悪い」が若干多い傾向がある。

表12-2 ここ1年間の健康状態評価(男女別)*

	たいへん 良好	まあ良好	どちらとも いえない	やや悪い	たいへん 悪い	合計
男性(%)	312(10.5)	1617(54.6)	588(19.8)	359(12.1)	88(3.0)	2964
女性(%)	291(8.7)	1825(54.8)	652(19.6)	475(14.3)	90(2.7)	3333
合計	603(9.6)	3442(54.7)	1240(19.7)	718(14.2)	178(2.8)	6297

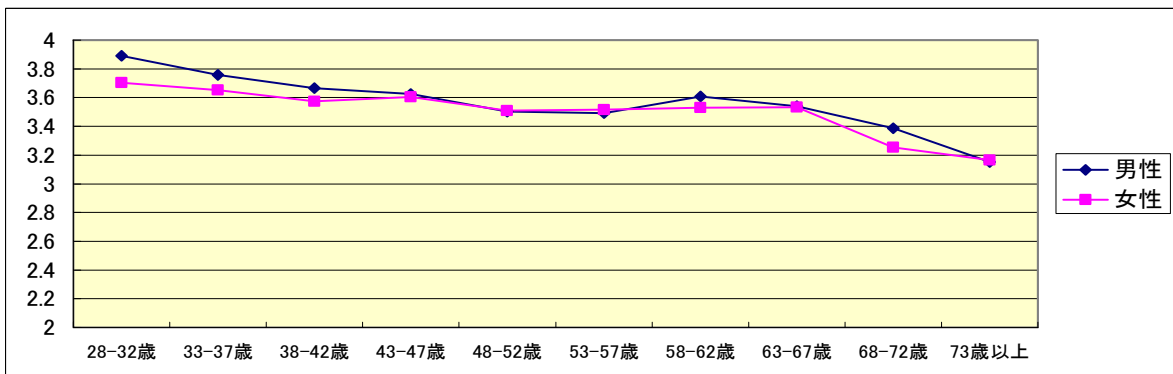


図12-2 ここ1年間の健康状態評価(男女・年齢別)

また、それぞれの選択肢に5点、4点、3点、2点、1点の得点を与えて、性・年齢別の平均値を図12-2に示した。得点の高いほど、健康状態評価が良好であることを示している。図をみると、1週間の心身状態の評価が比較的若い年齢層で悪かったのと異なり、高齢になるほど健康状態評価が低くなっていく傾向がある。また、男女差も小さい。

12-2 家計の状態、生活全体の満足度

1) 家計の状態評価

現在の家計の状態について、「お宅の現在の家計の状態についてどのようにお考えですか」という問いかけ文のもと、「かなりゆとりがある」「どちらかといえばゆとりがある」「どちらかといえば苦しい」「かなり苦しい」の4段階でたずねている。その結果を男女別のクロス表に示したのが、表12-3である。合計をみると、「かなりゆとりがある」2.1%、「どちらかといえばゆとりがある」40.5%で、過半数が苦しいと回答している。とくに「かなり苦しい」も12.6%あることは注目しておいてよいだろう。なお、男女の比較において、 X^2 検定での有意差はない。

また、それぞれに4点、3点、2点、1点の得点を与え、性・年齢別に平均値を示したのが図12-3である。得点が高いほど、家計にゆとりがあると評価している。図をみると、年齢が高くなるほど家計にゆとりがあるとの評価が高くなる傾向がある。また、「53-57歳」では、若干ながら女性のほうが家計に対して高い評価を与えているようである。

表12-3 家計の状態評価(男女別)

	かなり ゆとりがある	どちらかといえば ゆとりがある	どちらかといえば 苦しい	かなり 苦しい	合計
男性(%)	60(2.0)	1144(38.8)	1358(46.1)	384(13.0)	2946
女性(%)	70(2.1)	1390(42.1)	1440(43.6)	404(12.2)	3304
合計	130(2.1)	2534(40.5)	2798(44.8)	788(12.6)	6250

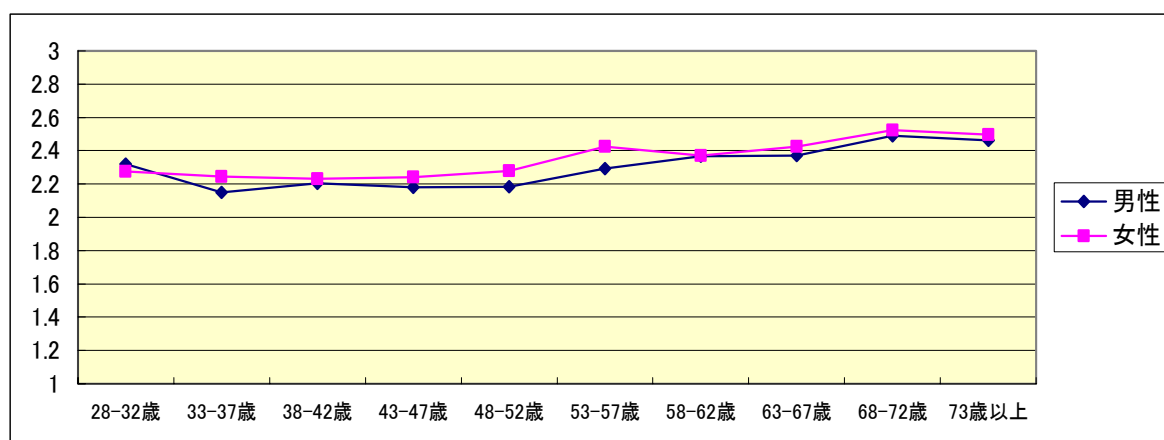


図12-3 家計の状態評価(男女・年齢別)

2) 生活全体の満足度

生活全体の満足度について、「現在の生活全体にどのくらい満足されていますか」という問いかけ文のもと、「かなり満足」「どちらかといえば満足」「どちらかといえば不満」「かなり不満」の4段階でたずねている。その結果を男女別のクロス表に示したのが、表 12-4 である。合計をみると、「かなり満足」8.3%、「どちらかといえば満足」64.2%であり、7割以上が、満足と回答している。ここでも、 χ^2 検定での有意差はない。

家計のゆとりと同じく4点から1点の得点を与え、得点の高いほど満足度が高くなるようにして、性・年齢別に平均値を示したのが図 12-4 である。性別、年齢別に大きな違いはみられないが、「48-52歳」の男性で、満足度が最も低くなっている。

表12-4 生活全体への満足度(男女別)

	かなり満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	かなり不満	合計
男性(%)	250(8.5)	1883(63.8)	647(21.9)	171(5.8)	2951
女性(%)	271(8.1)	2149(64.6)	751(22.6)	155(4.7)	3326
合計	521(8.3)	4032(64.2)	1398(22.3)	326(5.2)	6277

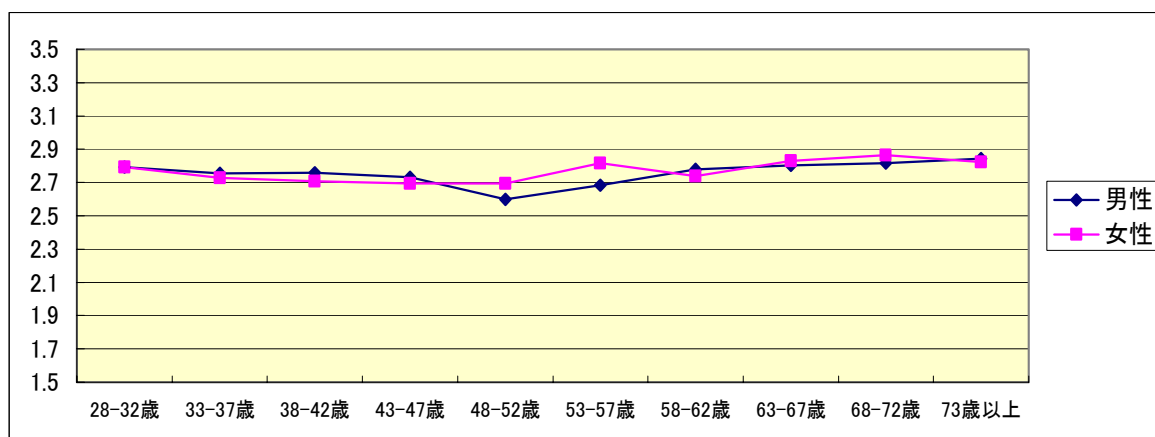


図12-4 現在の生活全体への満足度(男女・年齢別)

12-3 小括

1) 健康状態の評価

心身の健康状態をうつ病の診断尺度である CESD 尺度を利用して測定した。ネガティブ感情を測る項目でみると、「(ウ) 憂うつ」「(ア) わずらわしい」「(カ) 面倒」「(エ) 集中できなかった」などが比較的多くの人々が経験する事柄である。性別では、「(カ) 面倒」、「(ア) わずらわしい」、「(ケ) 眠れなかった」、「(ウ) 憂うつ」、「(シ) 悲しいと感じた」をはじめとして、多くの項目で女性のほうが頻繁にネガティブな感情を経験していた。ネガティブ感情を測る 11 項目で加算尺度を作り、男女別に年齢との関連を分析したところ、男性では、

「63-67 歳」で最も得点が低いが、その後上昇して、「73 歳以上」で最も高くなるが、女性では、「38-42 歳」で最も得点が高く、その後高齢になるほど得点が低くなって「58-62 歳」で最低となるが、その後また若干上昇するという傾向がみられた。男女で比較すると、「73 歳以上」を除いて、女性のほうが高い得点となっており、特に 20、30、40 歳代の比較的若い年齢層と、「63-67 歳」の向老期で、その差が大きい。

ここ 1 年間の健康状態の評価では、「たいへん良好」9.6%、「まあ良好」54.7%で、6 割以上が良好と回答している。男女の差異も小さい。年齢との関連では、1 週間の心身状態の評価が比較的若い年齢層で悪かったのと異なり、高齢になるほど健康状態評価が低くなっていく傾向がある。また、男女差も小さい。

2) 家計の状態、生活全体の満足度

現在の家計の状態について、そのゆとりの評価をみると、合計では「かなりゆとりがある」2.1%、「どちらかといえばゆとりがある」40.5%で、過半数が苦しいと回答している。とくに「かなり苦しい」も 12.6%あることは注目しておいてよいだろう。なお、男女の比較において、 X^2 検定での有意差はない。年齢との関連では、年齢が高くなるほど家計にゆとりがあるとの評価が高くなる傾向がある。

生活全体の満足度では、「かなり満足」8.5%、「どちらかといえば満足」64.2%であり、7 割以上が、満足と回答している。男女間では、有意な差はみられない。年齢別にも大きな違いはみられないが、「48-52 歳」の男性で、満足度が最も低くなっていた。